

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「ここからだの飢餓」に応える活動をしています。



キングダムビジネスから

災害に備える「パンの缶詰」

賞味期限が5年で、卵不使用で「まもり高める乳酸菌 L-137」を配合し健康にも気遣った「パンのかんづめ」です。通常価格は1缶500円(税別)で

すが、特別価格セット(3缶入り)をご用意しました。災害に備えてぜひご用意ください。

1セット送料込み2,300円でお届け。2セット送料込み4,000円。3セット送料込み5,000円。いずれの場合も沖縄・北海道は600円加算。

【お支払い】

後払い(銀行振込、郵便振替)

お申し込み:

(株)キングダムビジネス
スマートフォンは右のQRコードから
電話注文:06-6755-4877
FAX 注文:06-6755-4888



書き損じはがきや未使用切手を送っていただくと応援になります

未投函のはがきや未使用切手を支援活動に用いさせていただきます。年賀はがきの他、かもめーるはがきや記念切手類

なども大歓迎です。国内外の通信費軽減になります。はがきは日本郵便のものに限定します。送り先は大阪事務所まで。

ハンガーゼロ海外駐在員短信

●小西小百合(ポリビア)
一時帰国中の小西駐在員は、ポリビアで3月に行われるチャイルドサポーター支援終了セレモニー準備のため予定を早めて2月6日に再びポリビアに派遣されます。なお小西駐在員は今後もポリビアでの働きを継続します。

【本紙読者様への大切なお知らせ】

本紙をご愛読いただき感謝いたします。当機構では、昨年の郵便料金値上げに対応するため、現在2部以上の送付希望の読者様に対して発送部数の種類を次のように集約させていただきます。今後は、1部、5部、10部、15部、20部、30部、45部、70部、100部、150部、200部からお選びいただけます。大変ご迷惑とお手数をおかけしますが、ホームページのお知らせを確認していただくか、メール、電話あるいは上記オンライン申込フォームで、2月12日までに希望数をお知らせくださいますようお願いいたします。3月号発送分からの順次対応となります。



あなたの祝福を分かち合いませんか
Giving Back
わたしから始める...愛の恩返し

遺贈寄付

顧問弁護士が無償でご相談等お手伝いします

Zoom無料セミナー 次回は2025年2月28日
「参加希望者」は jifhtokyo@gmail.com メールまたは電話で

Hunger Zero
東京事務所・近藤 TEL.03-3518-0781
詳しくは電話でご説明しますのでご連絡をお待ちしています

専門講師(弁護士)による出張個別相談もできます

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ	フリガナ
(TEL)		
住所	〒	
申込日	年 月 日	NL415号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください	
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。	
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)	
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。	
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。	
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。	

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

ハンガーゼロサポーター 現在...53110

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

2025

2

No.415



干ばつのザンビア
活動地で緊急食料
援助を始めました!

P.4 に記事

Hunger Zero News 今月号の内容

ハンガーゼロ災害支援部	P.2
八尾トヨー住居の取り組み	P.3
ザンビア活動地緊急食料援助	P.4
物資支援報告(グアテマラ)	P.5
チャイルドサポーター ウガンダ・ナムトゥンバ支援終了	P.6-7

- 発行者 清家弘久
- 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
- Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
- eメールアドレス general@jifh.org
- フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索
- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
- ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Vポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,799,021ポイント(円)のご協力(26,382件)がありました。

- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
- USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
TEL (510)568-4939 FAX (510)568-4939
jifh.ainote@gmail.com
HP <https://ainote.org>



【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。

「人が生み出す飢餓」に迅速に応える



自然災害や戦争・内戦による飢餓の増加

世界的な気候変動による干ばつや洪水、また戦争や内戦など「人が生み出す飢餓」が、これまで以上に発生しています。そして難民や避難民など飢餓に苦しむ人々をさらに増加させていることは、忘れてはならない現実です。

「世界の飢餓・貧困をゼロに」という目標を掲げ、国内外での支援活動と国内での啓発活動を行なうハンガーゼロにとって、災害や紛争への緊急の対応がこれまで以上に大きな課題となっています。

阪神淡路大震災から30年、関東大震災から102年

日本国内に目を向けると、1995年1月に起きた阪神淡路大震災から30年、2011年3月の東日本大震災から14年、また2024年元旦に起きた能登半島地震から一年を迎えた2025年1月、政府の地震調査委員会は南海トラフ（東海から西日本にかけての太平洋側の広い範囲）で想定されるマグニチュード8～9の巨大地震が今後30年以内に発生する確率を、「70～80%」から「80%程度」に引き上げました。また関東大震災から100年を越えた今、「首都直下型地震」も30年以内に発生する確率が70%（2022年政府発表）と言われており、十分警戒しなければなりません。このように日本国内での災害への備えと対応も、これまで以上に差し迫った課題と言えます。

緊急対応班から災害支援部へ

ハンガーゼロでは、これまで災害発生時に随時にスタッフを招集し、緊急的に対応してきた災害への取組み（例：2022年から続くウクライナ避難民支援、2023年のトルコ地震、2024年の能登半島地震など）を、今後は「災害支援部」として常時継続的に対応していきます。これにより国内外で災害が発生した場合、これまで以上に緊急に支援活動を開始できることに加え、事前に災害に備える啓発活動（例：災害支援セミナーの開催など）を十分に行なうことができます。そのため災害発生時に随時、緊急に呼び掛けさせて頂く指定募金に加え、平時から災害に備えるための「災害支援募金」のあり方について、現在検討しているところです。

今後ますます重要度が増す災害支援について、災害支援部より情報発信してまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

災害支援部代表 近藤高史

ハンガーゼロ親善大使

阪神大震災から30年、森祐理さんラジオ特番に出演

1995年1月の阪神淡路大震災から30年となる1月17日に森祐理さん（2006年からハンガーゼロ親善大使）が、ラジオ関西の特別番組「モリユリのこころのメロディ～悲しみは悲しみで終わらない～」（60分）に出演されました。震災で弟さんを亡くされた当時のお話や被災者に寄り



添い「心の救援物資」を届け続けていることなど、元 NHKアナウンサー住田功一氏と共に30年の歩みを振り返ります。森祐理さんの公式ホームページや YouTube でアーカイブで聞くことができます。ぜひお聞きください。



公式HP

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ
大川内科
 循環器内科・内科・老年内科
 院長 大川 真理

八尾トーヨー住器株式会社



八尾トーヨー住器は1974年に設立、住宅・ビル用建材や資材、太陽光発電システムなどを販売する中堅企業として成長を続けています。2017年、同社が地域住民との交流を図るチャリティイベントで集まった募金の寄付先にハンガーゼロを選ばれたことを契機に、協力関係が始まりました。以来、災害対応のハンガーゼロ自販機設置、大阪マラソンに2年連続でチャリティランナーを送り出すなどの様々な応援をいただいています。昨年の能登半島地震では、建築資材の提供を通じて緊急・復興支援活動を応援していただいています。金子真也社長と今中泰俊SGDs推進リーダーに企業としての取り組みを伺いました。

企業の原点である“誰かに喜ばれる”を問い続けています

今中氏▶ハンガーゼロの清家さん（理事長）にSDGsの話聞き、調べてみると建築分野も関係あることが分かりました。それでSDGsの17のゴールの一助になればと考え、毎年秋口から年末にかけて「拡大キャンペーン」を実施しています。取引先の工務店さんに「この製品を購入いただくと御社もSDGsに協力（売上の中から募金）できますよ」というものです。



また年明けに「チャリティカレンダー市」（5回目）というのを行っています。年末になると様々な取引先からカレンダーや手帳をいただくのですが使いきれずに廃棄処分していました。それを有効活用するために地域の皆さんに一部100円以上で販売し、その売上金全額をハンガーゼロさんなどに寄付させていただきます。今回も40名位の方が近隣から来ていただきました。

金子社長▶その際にハンガーゼロさんの活動をご紹介します。「それはいいことですね。じゃ1,000円置いておきます」と協力してくださるんです。このカレンダー市は紙資源の環境負荷を減しつつ寄付につなげるものとしてこれからも続けていきたいと思っています。



ハンガーゼロの協力団体 LOVE EAST の活動拠点を視察（石川県羽咋市）

金子社長▶能登の被災地にハンガーゼロさんと一緒にさせていただいたり、カレンダー市やチャリティフェスティバルに取り組む中で社員が近隣の知らない方々から「ありがとう」という言葉をいただくと、困っている誰かにまた何かしたいという気持ちにもなります。



今中氏▶私は働く人のお困りごとを解決したり、誰かに喜んでいただくために仕事があると思っています。そういう意味ではハンガーゼロさんが目指すものに近いと思っています。もちろん企業として利益を出す必要はありますが、社長はそれだけでなく企業としての原点や働くことの意味を我々に問いかけられています。

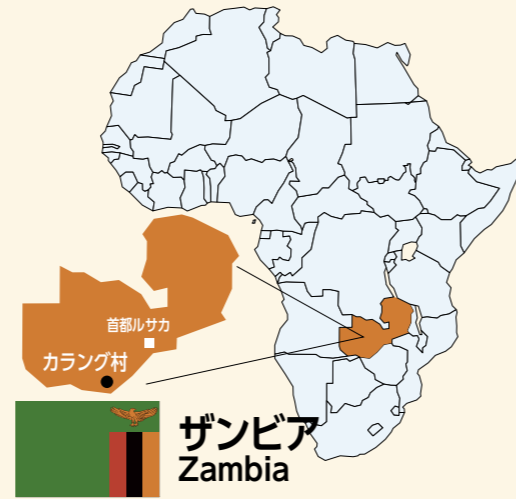
被災者を支援する活動拠点に建築資材で応援

金子社長▶能登半島地震が起これ、建築資材で応援できないかと考えてる中でハンガーゼロさんが緊急支援を始めていることを知り、現場に行かせていただきました。被災地でいろいろな提案がなされる中、最終的に支援組織の「能登ヘルプ」の活動拠点である内灘聖書教会の窓（サッシ）の入れ替えの支援をしました。さらに現在、LOVE EAST（ハンガーゼロの協力団体）の活動拠点（羽咋市内）に入浴設備を設置する段取りを進めています。

今中氏▶能登のこともあって昨年のチャリティフェスのテーマを防災にして、来会者に豚汁の炊き出しを提供することにしました。これは今後起こるといわれている南海トラフ地震に備えて地域の皆さんの助けになるのではとも考えています。今後もう少し練習を積んで、できれば炊き出しチームのような形でハンガーゼロさんの活動現場で協力できるようになればと思います。会社のトラックも社長のキャンピングカーもありますからね（笑）。



ハンガーゼロは、アフリカ・ザンビアの海外パートナー「Ainoteザンビア」からの緊急要請に応じて活動地のカラング村における干ばつ被害家庭に対して緊急食料援助を実施しています。



干ばつで水も食料も尽きる 緊急募金にご協力ください

ザンビア共和国のカラング村の人々が、ここ40年で最悪の干ばつに苦しんでいます。ここは2024年4月号のニュースレターでご紹介したハンガーゼロの活動地です。カラング村のある南部州は、以前はザンビアの主要な穀物生産地でしたが、4年にわたる干ばつにより、農業生産力が年々弱まっています。国連人道問題調整事務所 (OCHA) によると、長引く干ばつの影響により作物は甚大な被害を受け、家畜の死亡が増加しています。そのため地域の貧困の度合いが悪化、ザンビア全土の117地区のうち84地区で900万人に影響が出ています。

雨季がずれ込みさらに雨量も最小

カラング村の人々は勤勉で、ここ数年干ばつの影響を受けながらも、雨季には自分たちの手で食料を栽培し何とか耐えてきました。しかし通常は11月には降る初雨が今年は12月までずれ込んだ上、雨量が大変少なく、やっと植え付けた作物は全滅してしまいました。川が干上がり、普段は川から水を得ている人たちが村で唯一の井戸に並ぶため、水面が下がり水を汲むためには何時間も待たなければなりません。昨シーズンからの穀物の蓄えもとっくに底をつき、ほとんどの人が1日1食がやっとという状態です。中には野生の果物や食べられる根っこを探して何とか生き延びているという人もいます。ある程度余裕のある暮らしをしていた人たちがまた、財産である家畜を手放さざるを得ないところまで追い込まれています。深刻な水不足で草も育たないため、その家畜も飲み水と放牧草の不足のために弱っており、多くの家畜が命を落としています。

そんなカラング村の人たちが、一番苦しいこの時期を乗

り越え、何とか農業を続けて次の収穫を迎えることができるように、現地パートナーであるAinote ザンビアから緊急の食料援助要請がきました。

穀物、調理油、豆、塩などを緊急配布

孤児を受け入れて世話をしている家庭、子どものみで暮らしている家庭、寡婦、身体障害者、高齢者がいる家庭など、特に支援を必要としている約70世帯 (1世帯5人前後) を対象に、1世帯1ヵ月あたりメイズ粉25kg、調理油2L、うずら豆5kg、ピーナツバター1kg、大豆ミンチ3kg、塩1kg、砂糖2kgを2ヵ月間提供する計画です。来年以降も干ばつが続く可能性を視野に入れて、今後は収入源を多様化するために、昨年から取り組んでいるウサギの飼育の活動を広げると共に、食料生産や起業についてのトレーニングを行うことで、地域全体の長期的な生計の向上を目指していく予定です。

気候変動の影響が、おそらくその原因にほぼ加担していないカラング村の人たちを飢餓に追いやっています。持続可能な世界のために、私たちの暮らしを見直すと共に、今回の緊急食料援助へのご協力をよろしくお願いいたします。

※緊急支援の情報は速報性重視の観点でホームページやSNSで先行してお知らせしています。

募金はクレジットカード又は郵便振替で



左のQRコードからすぐにオンライン募金ができます。クレジットカードやコンビニ決済がご利用できます

【郵便振替での送金は】
00170-9-68590
日本国際飢餓対策機構「ザンビア緊急募金」明記

物資支援

ハンガーゼロは、FHカナダとの協働により2024年もグアテマラ、南スーダン、ブルンジに必要な物資援助を行うことができました。今月号と来月号に分けて報告させていただきます。



グアテマラは、国民の2/3が世界銀行の国際貧困ラインを下回る1日2ドル以下で生活しており、生後半年～5歳未満の子どもの発育阻害が世界で最も高い国の1つです。発育阻害は、慢性的な栄養不足の兆候の1つで、身体や脳の発達の遅れや免疫システムの低下などが起こり、学齢期の学びや大人になってからの労働など生涯にわたって影響を及ぼします。

乾燥スープミックス115万食を困窮者に優先配布

2024年5月、援助物資の乾燥スープミックス960箱 (115万2,000食分) がグアテマラに到着し、現地パートナーのラブ・グアテマラを通して、最も必要としている方々に届けられました。様々な地域で活動している小さな団体がラブ・グアテマラの倉庫まで受け取りに来て、それぞれの地域の貧困家庭や孤児院などに届けることで、より広範囲の必要に応えることができています。



子どもたちの髪の色がオレンジ掛かっているのは、ビタミン不足の兆候ですが、家族の健康のためには栄養バランスのよい食事が大切であるとわかっていても、それを買うことができない人たちがグアテマラには大勢います。飢餓、栄養不良、食品価格の高騰に苦しむ村の女性たちは、待ちわびていた炊き出しの日には、家にあるあらゆるサイズ、あらゆる種類の容器を手を駆け寄ってき



す。スープを受け取ると、涙を流し何度もハグしながら「グラジオス (ありがとう)」と繰り返す人たちもいます。

子どもが学校で勉強に集中できるようになった

エル・テハールに住むキャロラインさんもその1人です。夫のロナルド、息子のロナルド・ジュニアとの3人家族ですが、その他に面倒を見ている親戚が9人います。ラブ・グアテマラが毎週実施している炊き出しでスープミックス1袋も貰えるので 家族全員が飢えから逃れることができていると言います。ビタミンとタンパク質を摂取することができて、体が丈夫になり、病気になりにくくなったそうです。子どもたちは空腹のまま眠ることがなくなり、学校で集中して勉強できるようになったと支援への感謝を述べました。



私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。

Health & Natural Beauty
ロングライフグループ
 0120-550-294
 受付時間 9:00~18:00 年中無休
 大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
 ロングライフグループ拠点: 北海道/埼玉/東京/神奈川/千葉/静岡/愛知/大阪/兵庫/京都/大分/沖縄/中国(青島)/韓国/インドネシア(ジャカルタ)



FHウガンダ＝ウガンダ国際飢餓対策機構

イジランゴビとマガダ地区の人々の絆が深まり、人々が自信を持てるようになり、一緒に活動について話し合えるようになりました。

2025年8月に ウガンダ支援地訪問を予定

2013年10月に始まったイジランゴビとマガダ地区の支援活動は2025年9月で終了を迎えます。8月に地域で支援終了のセレモニーが開催されます。8/8日(金)～8/15(金)の予定で支援地の訪問を検討中です。

●ご関心のある方は、チャイルドサポーター事務局TEL072-920-2226にお電話ください。
※申し込みは受付順となりますが、チャイルドサポーター支援者が優先となります。
定員は14名。(最小催行人数10名)



美容師として働くエフランシさん



縫製を学ぶ学生たち

教育の力で夢を叶える

FHウガンダは、学校に通っていない青少年が、就職に有利な技術を身につけることができるように、縫製や美容師の職業訓練の支援を行いました。美容師の専門学校を卒業したエフランシさん(写真④)は、「この美容師コースに入学していなかったら、今頃どうなっていたかわかりません。絶望と無力感を感じていましたが、今では自分のサロンを営んでいます。」とうれしそうに語ってくれました。

マガダ中等学校、マガダ小学校及びパソガーンサドウ教育機関には、それぞれ20台のコンピューターを設置しました。これによって、在学中の生徒の他にも学外の青少年やマガダ地区の住民216人が、デジタルの基本的な応用、マーケティングの知識やコツ、SNSについての指導を受けることができました。このプロジェクトを通じて、地域全体の包括的な発展とデジタル環境の促進が期待されています。

地域の人々と共に

ハンガーゼロで支援している189人の子どもたちの家庭を訪問し、生活の様子や健康状態を確認しました。この訪問を通して、子どもたちや保護者、そして活動に参加しているボランティアとの間に、とても良い関係が築られました。

ウガンダ・ナムトゥンバ地域

2025年9月で支援が終了します



ナムトゥンバ地域では、教育、保健、栄養などマガダ全域の貧困レベルの改善を目標に、特にイジランゴビとマガダ地区において、子どもたちの家族を中心に支援活動が行われました。

より健康的な生活の実現に向けて

FHウガンダは、地域の保健所、水道局、環境局と協力して、マガダ地区の人々に新しいトイレの作り方やその重要性を教えました。より良いトイレを多くの家庭で使えるようにし、トイレの普及を目指しています。清潔なトイレを使用することで、より衛生的で健康的な生活を送れるようになるためです。

新しいトイレ作りに取り組んだジャックラインさんは、「家族が健康不安から解放されました。FHウガンダのおかげで近所の模範になりました。」と話してくれました。

栄養知識、地域に広がる

9つの村の保健チームと一緒に、265人の子どもたちの健康診断を行い、そのうち中程度の急性栄養失調と診断された子どもたちには治療を行いました。

両地区からは2人のボランティアと4人の保健チームのメンバーが選ばれ、栄養に関する知識を深める研修を毎月受けました。研修では乳幼児や青少年、妊婦の栄養について

学びました。研修を受けたメンバーは、24人の保健推進ボランティアに学んだことを共有し、そのボランティアたちによって近隣に住む母親たちに情報が共有されたことで、1,320人に栄養の知識が広まりました。



母親を対象にした栄養の学びと調理実習

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！

食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。

おいさと夢をお届けします。
株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索



2つの支援方法

子どもを支援する

支援地域の子どものつながり、地域で行われる活動をご支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円
子ども1人を支援することができます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動をご支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～
月々または自由なタイミングで支援できます。



ウェブサイトからも申し込みできます



お電話での問い合わせはチャイルドサポーター事務局へ 直通TEL072-920-2226